

## 卒業研究「組織におけるコミュニケーションの役割」(案)

梅澤佳子ホームゼミナール4年 小池 翼

### 1. 経緯

私は2、3年生次に高齢者を対象者とした「世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト」を担当していた。活動していく中で、プロジェクトメンバー内の同学年や後輩達でコミュニケーション不足による作業の遅れが起きた。コミュニケーション不足といっても、そもそも連絡を取らなかつたり、メールを確認していてもメンバー内での計画の認識が異なっていたり理由は初歩的な内容でそれぞれだった。自分の中で「コミュニケーションとは他者との関係を良好にする働きがある」と考える。組織の中での働きとして、「連携をスムーズにし、作業の質を上げる」などの役割があると思っていた。しかし、自分は所属しているプロジェクトでは以上のことが実行できていなかった。次第に自分の中で「コミュニケーションは他者との関係を良好にし、作業の効率をあげる」というよりも、「無いと計画が進行しない、日々の生活に欠かせないもの」という認識が変わっていた。

### 2. 目的

我々は生活する中で常に何らかの組織に所属している。上述した経験を通して自分の中で認識が変化していったコミュニケーションは、組織において実際にどのような役割を持っているのかを本研究のテーマとして考察していくことが目的である。

### 3. 本研究の進捗状況

現在は組織とコミュニケーションの関係性を調べるべく、関係のある文献を中心に研究を進めている。清水勝彦氏の『戦略と実行 組織とコミュニケーション』を読み進めながら研究を進めている。その中で「コミュニケーション

とは情報の伝達だけでなく、意味、価値観の共有」という記述があった。プロジェクトを担当していた際、自分はメールでの連絡を返さなかつたりしたので、この情報の伝達できていなかった。当時の先輩達は自ら積極的にメールで連絡を取り、情報の共有を欠かさなかつた。ゼミ活動の際は先輩を中心にプロジェクトについて議論をする機会が多く、意味、価値観の共有はできていたと考える。先輩達と比較して、コミュニケーションを行う際に最も重要な情報の共有、という部分を自分は疎かになっていることに気づいた。記述でも情報の共有は前提のように書いてあるので、コミュニケーションは意味、価値観の共有を目的にするだけでは成り立たないものだと思った。非常に共感できる部分があったので今後も要約を進めながら、コミュニケーションと組織の関係について研究を進めていく。他の文献についても今後とも参考にしていきたい。

### 4. 今後の研究計画

今後は、組織とコミュニケーションに焦点を当てて研究を行う。組織の中でなぜコミュニケーションを取り合うのかという目的の部分と、それがどのような役割を担っているのかを考え進めていく。自分が所属していたプロジェクトで得た経験や、当時のプロジェクトメンバーに話を聞き参考にしていく。組織とコミュニケーションについて関係の深い文献を中心に今後も研究を進めていきたい。

### 参考引用文献

- 1) 清水勝彦『戦略と実行-組織的コミュニケーションとは何か』日経BP社。2011年